

大分県知的財産総合戦略に係る 取組実績について

令和5年10月25日

大分県 商工観光労働部 新産業振興室

知的財産総合戦略（H31～R5）に基づく取組実績

発明くふう展

（大分県・大分県教育委員会・大分県発明協会）

場所：大分県立美術館OPAM

【概要】大分県の将来を担う児童・生徒の創意工夫する心を培うとともに、多くの県民に発明等の知的財産へ関心をもってもらうことを目的とした取組。

【主催】大分県、大分県教育委員会、(一社)大分県発明協会の3者共催

【R1～R5実績】作品出展総数：679点 来場者総数：4,004名

※R4年度より後援である大分大学学長賞と大分合同新聞社賞を追加

【R5】開催期間：R5.10.10～10.15



R4年度の第81回大分県発明くふう展の様子



「第80回全日本学生児童発明くふう展」・
「第44回未来の科学の夢絵画展」入賞
大分県商工観光労働部長報告
R4. 3. 30

少年少女発明クラブ（大分県発明協会等）



【R2】由布市少年少女発明クラブ開講（8月）
県下9クラブ→10クラブとなる

【R3～R4】未設置市について設置の働きかけを実施中
大分県の発明クラブ設置数は全10クラブ（全国第3位）
県内クラブ未設置市：豊後大野市、竹田市、津久見市、臼杵市
R4年度は豊後大野市、津久見市で体験会を実施

O-Labo（教育庁）



【R2】・中津・日田・佐伯にサテライトラボを設置

【R3】・参加者児童生徒数：5,338名

・国東・豊後高田・姫島・竹田・豊後大野・
臼杵・津久見の6か所にサテライトラボを設置

【R4】・参加児童生徒数：5,457名

県内各地サテライトラボにて地域企業や高校等と
連携した講座を開催 参加児童生徒数：1,348人

知的財産総合戦略（H31～R5）に基づく取組実績

知財塾・知財セミナー（新産業振興室）

開催日	受講者数	テーマ・講師
R5.2.16	25	「中小企業に必要な知商品開発における知的財産の活用と保護の実際」 国立大学法人大分大学 研究マネジメント機構 産学官連携センター 教授 松下 幸之助 氏 「ベンチャー企業の技術開発における知的財産の気づき」 株式会社ハイドロネクスト CEO 永井 正章 氏
R5.2.24	9	「頼りにされる知財担当者の実践的実務テクニック」 「無料調査ツール（J-PlatPat）を使った先行調査の方法について」 いまなか国際知的財産事務所 代表弁理士 今中 崇之 氏
R5.3.2	18	「『ものづくり』『まちづくり』における知的財産権の役割」 国立大学法人九州大学副理事 大学院法学研究院 教授 小島 立 氏

R4年度の知財塾の様子



【R1～R4年度】知財塾参加者数（延べ128人）【R1～R4年度】知財セミナー参加者数（延べ118人）

（R4新規）知財コーディネート事業 ※R3年度の知財戦略推進会議でいただいた意見を基に事業を構築

【概要】

県内企業を対象に、知財の普及啓発、各種支援を目的として知財CDが訪問する。

【R4活動実績】

- ・稼働日数 70日 ・訪問件数 308件 1日あたり訪問件数 4.4件/日
- ・他支援機関への紹介（知財総合支援窓口） 26件
- ・特許、商標出願企業支援数 各1社

知的財産総合戦略に基づく取組実績

大分県が支援したIoT等のプロジェクト事業（先端技術挑戦課）

No.	プロジェクト名	取組内容
1	先端技術挑戦プロジェクト	・空港制限区域内にある特定のサービスレーンにて、進行可否を判断するAIモデルの開発及び実証実験を実施
2		・光学・SAR衛星データのハイブリット分析による地域可視化プラットフォーム
3		・養殖魚のワクチン注射IoT利用による自動化プロジェクト
4		・AIをビジネスに活用できる人材育成のための高等学校向けコース「AIミネルバ」講座の開発及び検証を実施
5	アバター戦略推進事業	・アバターロボット「temi」を用いたアバター葬儀会葬サービスの開発
6		・ギフトショップでのアバターロボット「temi」の活用
7		・そろばん教室でのアバターロボット「newme」の活用
8	次世代モビリティ推進事業	・豊後大野市による医療MaaSの実施

【R4】



APU留学生とアバター会葬についての意見交換会の様子

知的財産総合戦略に基づく取組実績

加工品・工芸品の販路開拓（商業・サービス業振興課）

【R1・R2】・アメリカ及びフランスにおける別府竹細工プロモーションを実施（別府市）

アメリカ（ニューヨーク）

- ・ジャパン・ソサエティーとの共同開催による「Functual & Aluring: Japanese Bamboo Art」（別府竹工芸の魅力）を開催
伝統工芸士2名による「別府竹細工の実演」、別府竹細工の新商品紹介、別府市と竹工芸の発展のプレゼンテーション、別府竹細工の作品展示と合わせたレセプションを実施
- ・「H.P.F,CHRISTPHER（セレクトショップ）」と連携し、別府竹細工の新商品のテストマーケティングを実施



フランス（パリ）

- ・「別府竹細工」の情報発信、販路拡大を目指し、別府竹製品協同組合が（一財）伝統的工芸品産業振興協会のパリ・ショールーム「ESPACE DENSAN」に出展
デザイナー、プレス、ギャラリー関係者や一般市民等に対し、製品の展示及び別府竹細工のデモンストレーション。ワークショップ等のイベントを実施



【R3・R4】

【デザイン性、統一性でブランド化を推進】 別府竹製品協同組合

- ・全国で別府竹細工を取り扱う店舗がある中、別府竹細工製品協同組合としてのブランド価値を形成するため、「Beppu /Bamboo」をロゴに活用するなど、ブランド化を推進中
- ・R4.12月に「別府竹細工」を地域団体商標として登録



【統一ブランドの下、商品の個性を！ 地域団体商標をフルに活用しブランド再構築】 大分県酒造組合

- ・本県焼酎業界では、麦・麦麴を原料に「大分麦焼酎」を地域団体商標として活用の幅を広げ、F1層を取り込むなど知名度Upを図る



【ECにおける商標を確保】

大分県、大分県公式オンラインショップ

- ・「おんせん県おおいたオンラインショップ」の『おんせん県おおいた』ロゴを通販分野においても、本県所有のロゴとして知財保護することで、今後の活用を担保



知的財産総合戦略に基づく取組実績

県内中小企業と取組む共同研究（産業科学技術センター）

【R4】・産業科学技術センターにおいて実施した、県内企業との共同研究開発数は10件。

No.	研究テーマ
1	窒化ガリウム（GaN）パワーデバイス搭載高性能パワーモジュール製品開発
2	高周波部品の研究開発
3	ドローンアナライザーによるAI学習データ取得の研究開発
4	磁気測定器の要素技術研究
5	3Dプリンターによるドローンフレームの性能評価
6	姿勢制御パラメータが飛行性能に及ぼす影響評価法の開発
7	ジャッキシステムの開発における荷重付加構造部の強度解析による最適形状の確立
8	線引き用ダイス内面へのDLCコーティングに関する研究
9	地熱資源を活用した温泉水濃縮方法の研究
10	ウイスキー製造条件の確立に関する研究

令和5年度知財活用連携支援委託業務 知財コーディネート事業 活動報告（6～9月）

2023.10.13 大分県発明協会

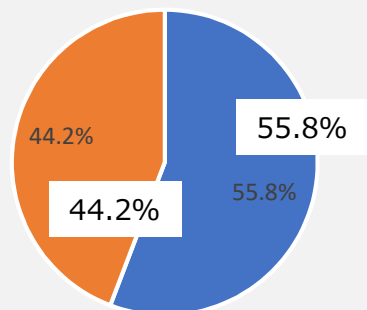
県内企業に対し、知的財産に関する普及啓発・各種支援や、企業の戦略に合わせた戦略の検討・策定アドバイス等を行うことや、相談内容に応じて、他支援機関の紹介・施策説明を行う事業活動の報告を致します。

①県内支援機関と連携し、県内企業（特に、製造業・農林水産業者等）・各種機関への知的財産に関する各種支援・普及啓発を実施

（6月から9月までの活動実績）

稼働日数	30
訪問件数	120
一日あたり訪問件数	4.0
知財に関心有り	67
知財に関心無し	53
他支援機関への紹介件数 (知財総合支援窓口)	2

6～9月訪問企業120社



■ 知財に関心有り ■ 知財に関心無し

特に関心の高かった1社については、知財総合支援窓口へ支援を要請し、具体的な知財の説明等の支援を実施。

・企業A：食品製造業で会社ロゴを商標登録を検討しているとの事。権利化の有無を含め支援をしてほしい。

支援機関の紹介依頼が1社あり支援要請を行った。

(大分県よろず支援拠点、)

・企業B：食品製造業で和菓子ビジネスを懸念している。今後の販路拡大等支援して欲しいとの事であった。

その他、以下のような知財関連の話を伺うことができた。

・看板製作会社では著作権について顧客から聞かれることがある。

・デパートから商品の出品に依頼があったが、商標出願していないという事でダメになった。

・特許・商標の権利化を弁理士に一任している

・特許を何件も権利化済みであるが、本社で管理

担当者の印象では、関心無しに分類した企業の中で半数は、多忙のため知財まで手が回ってない、たまたま対応した方が知財に関心がなかったで残り半数は全く関心が無かった。知財に関心があり重要性を感じている企業は多いが活用となると事業活動の中で2番手、3番手となっているのではないかと感じる。知財の普及啓発は重要であると考えます。

②県内企業における知的財産戦略の策定アドバイスや権利取得後のフォローアップの実施

稼働日数：1日 訪問実績：2社

- ・権利化については、今年2月に審査請求を行った。5月に拒絶理由通知が届き現在補正の対応中とのこと。
- ・この案件に於いては、自社の作業効率向上を目的としており、広く販売等行っていく予定はないとの事。
- ・権利化について、まだ審査請求は行っていないとの事。権利化については今後検討していくとの事。
- ・まだ改良等必要でありなかなか進んでいないとの事です。

今後特許チャレンジコンテスト受賞企業および外国出願補助金採択企業に対してのフォローアップを行っていく。

令和5年度（4月～9月）知財支援活動中間報告（大分県発明協会実績）

- ・知財支援機関での支援件数：474件 内訳、製造業への支援：346件
農林水産業への支援：49件
海外展開に関する支援：79件